

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

御大師山（おだいしやま）環境教育ツーリズム構想 総合案内拠点施設「いきものの里ふれあいプラザ」整備

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道夕張郡栗山町

3 地域再生計画の区域

北海道夕張郡栗山町の全域

4 地域再生計画の目標

昭和60年、御大師山で国蝶オオムラサキが発見されたことを機に、まちのシンボルとして自然環境保護・保全意識が高まり、官民一体となった取り組みを展開。平成元年に御大師山一帯が環境省の「ふるさといきものの里」の指定を受け、関連施設を整備して更なる活動推進を図ってきた。人と自然が共存する約30年の取り組みを礎とし、近年では自然体験教育を通じた“ふるさと意識”の醸成にもつながっている。

しかしながら、教育機関や関係団体の利用縮小、立地や利便性の面における課題などにより関連施設の利用者数は年々低下。また、活動を支える関係団体の高齢化や弱体化により後継者（担い手）も不足している。

これら町民活動の歴史や、御大師山における生態系の魅力を伝承・普及するほか、これまでに培われた本町固有のフィールドや歴史文化を連携させた「御大師山環境教育ツーリズム構想」の実現に向け、御大師山フィールド全体の活用促進を図るため、御大師山の麓に位置する自然学習・交流体験施設「ふれあいプラザ」を利活用し、「フェアブルの森観察飼育舎」の機能を移転・統合して、新たな総合案内拠点施設「いきものの里ふれあいプラザ」として整備することで、利用者の滞在・再訪を促して増加を図ると共に、交流人口の拡大につなげる。

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

「ふれあいプラザ」や「フェアブルの森観察飼育舎」の利用者数は年々低下しており、教育機関や関係団体の利用の縮小、再訪意識につなげる事業展開に至っていないなどの要因のほか、特に「フェアブルの森観察飼育舎」は立地や利便性の面における課題もある。

御大師山フィールドを活用した自然体験は利用料による収益性も見込めるが、団体のみに限定されており個人利用者を取りこぼしている状況にある。

また、活動を支える自然環境保護・保全関係団体の高齢化や弱体化により後継者（担い手）も不足している。

4-2 地方創生として目指す将来像

昭和60年、御大師山で国蝶オオムラサキが発見されたことを機に、まちのシンボルとして自然環境保護・保全意識が高まり、官民一体となった取り組みを展開。平成元年に御大師山一帯が環境省の「ふるさといきものの里」の指定を受けたことを皮切りに、「ふれあいプラザ」や「フェアブルの森観察飼育舎」などの関連施設を整備して更なる活動推進を図り、平成19年には天皇・皇后両陛下も行幸啓いただいた。

人と自然が共存する約30年の取り組みを礎とし、近年の自然体験教育を通じた伝承・普及により“ふるさと意識”の醸成にもつながっている。町外へもその魅力を発信し、交流人口の拡大を図っていく。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
総合案内拠点施設利用者数(人)	12,664	2,336	5,000	5,000
個人向け体験プログラム利用者数(人)	0	100	500	600
担い手の雇用者数(人)	0	0	2	1

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
総合案内拠点施設利用者数(人)	2,500	2,500	17,336
個人向け体験プログラム利用者数(人)	600	600	2,400

担い手の雇用者数（人）	0	0	3
-------------	---	---	---

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

国蝶オオムラサキの発見を機とした自然環境保護・保全活動など、これまでに培われた本町固有のフィールドや歴史文化を連携させた「御大師山環境教育ツーリズム構想」の実現に向け、既存施設を利活用し、国蝶オオムラサキを公開・保護している別施設の機能を統合して、新たな総合案内拠点施設「いきものの里ふれあいプラザ」を整備するほか、利用者の滞在・再訪につながる機能を備え、施設利用者数の増加と交流人口の拡大を図る。

また、施設運営を行う町内NPO法人の収益性を高めながら、経営の自立化や新たな担い手の確保・育成を行う。

さらに、町内関係団体・事業者などにより構成する「ふるさといきものの里づくり推進協議会」を組織して、「御大師山環境教育ツーリズム構想」の基盤となる連携体制を整備する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

北海道夕張郡栗山町

② 事業の名称

御大師山（おだいしやま）環境教育ツーリズム構想 総合案内拠点施設「いきものの里ふれあいプラザ」整備事業

③ 事業の内容

国蝶オオムラサキの発見を機とした町民活動の歴史や、御大師山における生態系の魅力を伝承・普及するほか、これまでに培われた本町固有のフィールドや歴史文化を連携させた「御大師山環境教育ツーリズム構想」の実現に向け、御大師山フィールド全体の活用促進を図るため、御大師山の麓に位置する自然学習・交流体験施設「ふれあいプラザ」の増築・模様替えによる利活用をはじめ、別施設「ファールの森観察飼育舎」の機能を移転・統合して、新たな総合案内拠点施設「いきものの里ふれあいプラザ」として整備する。

総合的な生き物の展示・飼育、図書や標本などの資料集積・公開、

カフェ機能も兼ね備えた野鳥観察・喫茶コーナー、オムラサキ解説コーナーや新たな公開展示施設「オオムラサキ館」など、利用者の滞在・再訪につながる機能を備え、施設利用者数の増加と交流人口の拡大を図る。

運営は自然体験教育プログラム等による経営ノウハウを有する NPO 法人雨煙別学校がリーダーシップを発揮し、関係団体・事業者等との連携を図りながら進め、自立化した運営と、御大師山フィールドで活躍する担い手の確保・育成を進める。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

従前より、小学校廃校舎を再生した宿泊施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」及び「ふれあいプラザ」の運営も受託するなど、自然体験教育プログラム等による経営ノウハウを有する NPO 法人雨煙別学校が総合案内拠点施設の運営を担う。

個人向け体験プログラム料、イベント参加料、カフェやアンテナショップ機能における商品売上などを自主財源としながら、平成33年度以降の自立化を目指す。

また、総合案内拠点施設の集客や情報発信による相乗効果として、別施設である宿泊施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」の利用増も図り、NPO 法人雨煙別学校が行う事業全体としての収益も高めていく。

【官民協働】

自然体験教育プログラム等による経営ノウハウを有する NPO 法人雨煙別学校が、自立化も見据えて総合案内拠点施設や御大師山フィールド活用の事業運営を行うことを目指し、行政においては事業推進主体とする協議会組織による関係者との連携体制を整備し、課題把握と改善に努めながら同法人の自立化に向けて財政面も含めた支援を行っていく。

【政策間連携】

総合案内拠点施設は個人利用者へ対する自然体験や自然教育のワンストップ窓口として機能し、拠点施設や御大師山フィールドの利用を目的とした交流人口の増加に伴う観光・交流産業の活性化をはじめ、個人向け体験プログラムやイベント開発などによる地域産業の競争力

強化、担い手確保・育成による雇用創出とふるさとづくりの推進を図ることができる。

【地域間連携】

特になし

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
総合案内拠点施設利用者数(人)	12,664	2,336	5,000	5,000
個人向け体験プログラム利用者数(人)	0	100	500	600
担い手の雇用者数(人)	0	0	2	1

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
総合案内拠点施設利用者数(人)	2,500	2,500	17,336
個人向け体験プログラム利用者数(人)	600	600	2,400
担い手の雇用者数(人)	0	0	3

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を栗山町経営企画課が取りまとめ、PDCAサイクルによる検証を実施する。

【外部組織の参画者】

産官学金労と住民で構成する外部有識者会議や議会の関与により検証結果報告をまとめる。また、これとは別に言（新聞社）にも意見等

を求め検証材料とする。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 63,104千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日（5カ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 「いきものの里ふれあいプラザ」集客促進・体制強化事業

事業概要：パンフレットやポスター、ウェブサイト制作・運用とSNS活用による情報発信、オリジナルグッズ制作・配布によるPR活動などを行い集客促進を図るほか、各コーナーに関する備品や設備を整備して、居心地の良い空間をつくり、より利用者の満足度を向上させる。また、町内関係団体・事業者などにより構成する「ふるさといきものの里づくり推進協議会」を発足・運営して、「御大師山環境教育ツーリズム構想」の基盤となる連携体制を整備する。

実施主体：北海道夕張郡栗山町

事業期間：平成29年度～平成33年度

(2) 「いきものの里ふれあいプラザ」運営事業

事業概要：自然体験教育プログラム等による経営ノウハウを有するNPO法人雨煙別学校が運営主体となり、個人向け体験プログラム開発・実施、イベント開催、カフェ及びアンテナショップ運営などを行い、これらによる収益性を高めながら経営の自立化や新たな担い手（人材）の確保・育成を行う。

実施主体：NPO法人雨煙別学校

事業期間：平成30年度～平成33年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を栗山町経営企画課が取りまとめ、PDCAサイクルによる検証を実施する。

【外部組織の参画者】

産官学金労と住民で構成する外部有識者会議や議会の関与により検証結果報告をまとめる。また、これとは別に言（新聞社）にも意見等を求め検証材料とする。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
総合案内拠点施設利用者数(人)	12,664	2,336	5,000	5,000
個人向け体験プログラム利用者数(人)	0	100	500	600
担い手の雇用者数(人)	0	0	2	1

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
総合案内拠点施設利用者数(人)	2,500	2,500	17,336
個人向け体験プログラム利用者数(人)	600	600	2,400
担い手の雇用者数(人)	0	0	3

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

検証結果は毎年度、栗山町ホームページ等で公表するほか、必要に応じて栗山町まち・ひと・しごと創生総合戦略に反映させる。